



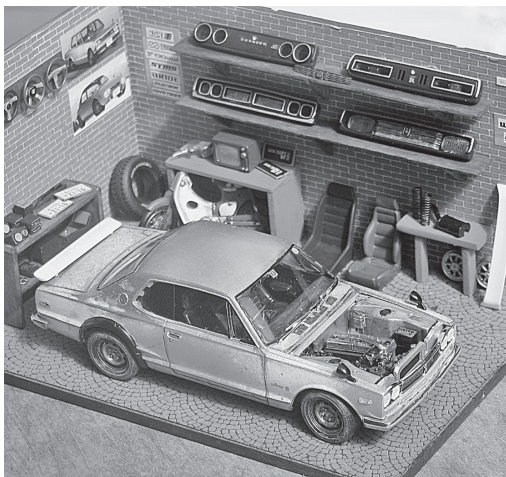
『私の趣味』

菱野区 杉山 和夫

プラモデルづくりの面白さはそれは「作業」の積み重ねが実を結び、バラバラだったパーツに意味を生じさせていくこと。小学生の頃から続いている私の趣味だ。

小さな部品を組み合わせていくと、だんだん形になってくる楽しさはジグソーパズルと似た感覚だ。組み立て中のプラモデルのでき上がりを想像し完成へと続く作業はワクワクする。

色絵を塗る楽しさはぬり絵に似た楽しさ、軽量のプラモデルを金属らしく、布らしく、ゴムらしく、錆びついているように汚れたように塗り分ける作業は飽きない。



でき上がりに満足することもあれば、再度作り直したいと思うこともある。

作業部屋には今までの作品300個をガラスケースに飾って、物思いにふけりながら独り眺めて楽しむ。「こんなに作ってどうするの」と家人に聞かれるが、作りたいプラモデルが次々にあるので答えられない。そして



作業を続ける目的の半分はボケ防止だ。

やがて私がこの世を去るとプラゴミとして処分されてしまいうだらう。願わくば4人の孫達が年頃になった時に、私の作った400個(完成予定数)

のプラモデルを見て、私の費やした時間に思いを馳せる日があつてほしい。

稲穂を渡る風が秋をつけている。これからはコタツに入つてプラモを作る。30年前に買って箱を開けた瞬間、「無理だ」と押し入れの奥にしまった「戦艦大和」(1/250)も今なら作れる。この冬は全長1メートル超えの大物に挑戦する。

俳句

てまり句会

- 妖精の如し花野が似合ふ君 工藤 貢
- 新涼や火照りをさます登り窓 石田 経治
- 本棚の奥までしのび込む猛暑 滝澤 清
- 存へて襪襟悲しむ昼の虫 大池 知恵
- 忙しき用事もなくて昼ちちろ 野中 威
- 身の丈の夢をみてる花野かな 国見 敏子

短歌

土笛小諸短歌会

- 歌友二人重く病みおり朝々を 「カッコウ」聞けば思いほぐるる 土屋 たけし
- 看とらるる身にありながら夫に向け 荒き言葉の己を恥づる 市川 かつ
- 退院と外に出づれば風さやか 生きねばならじとこみあげてきぬ 井出 八重子
- 陽に焦げる庭を這いつつ赤白黄 マツバボタンは可憐に咲けり 荻原 トシ子
- 「盆々と待ちなが盆よただ三日」 里謡つぶやき送り火焚きおり 田中 邦
- 生前に義母の植えたる白いバラ 厨の窓に輝きて香る 小林 りつ子